

こころの道

Nhan hieu Thông minh Khỏe mạnh



やさしく
ニャンハウ

かしこく
トンミン

たくましく
ホーエマイン



校長 佐藤之保

思いは同じ

今週から本校は『テト』のお休みに入ります。

このテトは、ベトナムでは数少ない大型連休でもあり、家族が一堂に会し、食事を分かち合い、互いの絆を深める貴重な機会でもあるそうです。

このテト休暇期間中は、ベトナム国内の各都市において、大小様々な企業や商店、施設、公的機関が閉まり、祝賀ムードとなるようです。

『テト』は、ベトナムの旧正月のことで、「旧暦(太陰暦)の新年」を指し、ベトナム人にとって『テト』とは、前年の不運を取り除き(大掃除)、新しい年の始まりを祝うだけでなく、先祖を祀り、家族とのふれあいや感謝の気持ちを大切に作るひと時でもあると聞きます。

そして、各家庭でテトに振る舞う伝統料理(ちまき「バイン・チュン」など)の準備が進められたり、家の飾り付けを行ったり、と大忙しの準備期間を経て、テト本番を迎え、親族・友人たちが故郷で一堂に会し、新年をお祝いするとのことでした。

今の時期にハノイの街を歩けば、街中でお正月の装飾品や贈り物、お年玉袋、花、金柑の木等が売られ、親子や友達同士などたくさんの笑顔を見ることができます。ベトナムでは、桃の花は北部の飾りで魔除けになるとされており、黄色い梅の花は南部の飾りで金運アップ、金柑の木は黄色の実がたくさん生ることから子孫繁栄や金運アップを意味しているとのことでした。

我が国では年々、お正月の飾り等が簡素化されてきている気がしますが、最近のハノイの街の様子を見ると、ここベトナムでは、まだまだ人々の正月への高い熱気を感じることができます。

時期は違いますが、ここベトナムでの年末年始の過ごし方は、日本人の年末年始の過ごし方(年末大掃除や故郷へ里帰り)に似ていて、「思いは同じ」ではないかと感じます。

家族や仲間を大切にすることは、万国共通なのだと改めて感じます。